令和元年度台風15号・19号による会員の被災は200件超

猛烈な雨・風により茨城県内にも甚大な被害をもたらした台風15号・台風19号。保険医協会では会員の被害状況を調査。2019年10月31日時点で202件の会員から被害報告を受けている。人的被害は報告されていないが、台風15号では鹿行地区や県南方面を中心に突風による被害が多数あった。台風19号では県北地区を中心に、那珂川水系や久慈川水系の氾濫による被害も出ている。

協会では建物被害の大きかった会員医療機関を訪問。お見舞い金を手渡し、被害状況の詳細について聞き取りを行っている（※19年10月31日時点で83医療機関を訪問）。

令和元年度台風15号・19号で被災された会員の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

現在、保険医協会では「被災状況報告書」にもとづき、医療機関の建物または自宅の建物に関して被災された皆様にお見舞金をお届けしています。被災状況報告書を未提出の方、用紙が手元に無い方は保険医協会までご連絡ください。

一般社団法人 茨城県保険医協会
会長　宮﨑三弘

台風19号により浸水被害 再建までの道のり長く

水戸北スマートインター近くにある水戸市藤井町の歯科医院は台風19号による藤井川の決壊により浸水。医院は基礎が高く作られており玄関まで少なくとも1メートル以上の高さはあるものの、それを上回る浸水があった。院内はユニットをはじめとする全ての医療機器が水に浸かった。地面から水面までの高さは最大で3メートル程度あったと想定される。決壊した川の水が引いた後、メーカーに院内にあった機器の状態を確認してもらったところ、全ての機器が使用不能であり、総入れ替えになるそうだ。

同医院の院長によると、医院の周辺には複数の商店があるが、今回の水害を機にほとんどの商店が店を閉じるという。高齢化が進んでいる街であり、今後さらに街の人口が減り、街として成り立たなくなるのではないかと不安はつきない。

協会が同医院を訪問した10月24日、近隣の患者が次々に医院を訪れ「いつから再開しますか?」と院長に質問していた。院長は最低限の医療機器を早急にそろえ、11月下旬の医院再開をめざすという。

常陸大宮市でも那珂川の決壊により歯科医院が水没した。大子町でも久慈川の川岸浸食などにより病院や診療所が水没している。これらの地域では断水被害なども相次いだ。

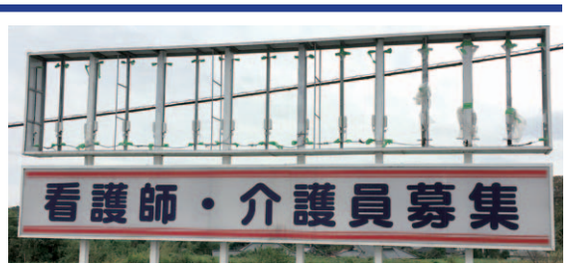
医院の下（1階部分）にあった機械室（水戸市藤井町）

浸水により散乱した院内（水戸市藤井町）

国道123号沿いでは災害ゴミの片付けにおわれる（水戸市藤井町）

台風15号は突風被害多数

台風15号は鹿嶋市で最大瞬間風速36.6メートルを観測。暴風雨により鹿行地区を中心とした被害が大きかった。



突風により看板上部のパネルが破損（稲敷郡美浦村）

鹿嶋市内の医院では暴風雨により職員用通路が浸水。幅約2メートル、長さ約7メートルにわたって浸水した。河内町内の医院では、屋根の天辺に位置する棟板金が飛ばされ、また、高さ5～6メートルある医院の看板が倒れる被害もあった。潮来市内の医院では、医院に隣接する自宅屋根が破損。突風が吹くたびに屋根がめくれあがる状態となり、修理に数百万円がかかるという。鹿行方面は隣接する千葉県に自宅を構える会員も多く、千葉の自宅が強烈な雨の影響でベランダに水が溜まり排水できず、1階の天井に浸水する被害があった。

大きな被害は 災害復旧補助金・貸付の活用検討を

厚生労働省は被災医療機関向けに「医療施設等災害復旧費補助金」を設けている。復旧費用の1/2を補助する制度であり、公的医療機関や政策医療実施医療機関が主な対象だが、休日・夜間診療等を実施している場合や在宅医療を行う場合等も対象となる。被災医療機関の中には対象とならない医療機関もあることから、協会では、地域医療に貢献する全ての医療機関を対象とするよう、関係各所に要望書を提出している。また、日本政策金融公庫では、災害復旧貸付として一定の利率で貸付を行っている。